

甲 第 号

西岡 祐一 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	齋藤 能彦
論文審査担当者	委員	教授	藤本 眞一
	委員(指導教員)	教授	今村 知明

主論文

Absolute Risk of Acute Coronary Syndrome after Severe Hypoglycemia: A Population-Based 2-year Cohort Study Using the National Database in Japan

重症低血糖後の急性冠症候群の絶対リスク：日本のナショナルデータベースを用いた一般集団対象の2年間のコホート研究

Yuichi Nishioka, Sadanori Okada, Tatsuya Noda, Tomoya Myojin, Shinichiro Kubo,
Shosuke Ohtera, Genta Kato, Tomohiro Kuroda, Hitoshi Ishii, Tomoaki Imamura.

Journal of Diabetes Investigation 2019 Oct 3. [Epub ahead of print]

論文審査の要旨

本研究は、重症低血糖（SH）が急性冠症候群（ACS）の発生率に及ぼす影響の経時的変化を明らかにすることを目的としており、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を用いて、2014年4月から2016年3月までの35歳以上の糖尿病患者を抽出しACS発生率を計算したものである。

結果は、全患者125,779,650人のうち対象は7,909,626人であり、ACSは37,486人で発生しており全体のACS発生率は2.7（以下率は1,000人年あたり）であった。SH群48,118人のSH発生後1-10日以内、11日以降のACS発生率はそれぞれ10.6、2.7であり、SHのなかった群のACS発生率は2.7であった。

以上よりSH後10日間のACS発生率は11日以降に比べて上昇することを示した。ACS発生率の観点からも、糖尿病治療の際にはSHを避けることが重要であるとの結論に至っている。

公聴会においては、今までデータは存在しているが分析されてこなかった理由はなぜか、といった質問に対し、他分野の研究者の複合チームでなければ分析できないデータであったとのやり取りがあった。

本研究により今までの手法では得られなかった臨床的に稀なケースに対する学術的な見解が得られることが期待され、公衆衛生学及び糖尿病学の発展に寄与するものと考えられる。

以上より、公聴会における質疑も適切であり学位を授与するに相応しい研究と考える。

参 考 論 文

1. 世界最大の医療ビッグデータ NDB（ナショナルデータベース）の活用と今後の展望
西岡祐一、野田龍也、今村知明
日本整形外科学会雑誌 93 卷 11 号 Page959-979(2019.11)
2. Variation in fracture risk by season and weather: A comprehensive analysis across age and fracture site using a National Database of Health Insurance Claims in Japan.
Hayashi S, Noda T, Kubo S, Myojin T, Nishioka Y, Higashino T, Imamura T.
Bone. 2019 Mar;120:512-518.
3. National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan (NDB): Outline and Patient-Matching Technique
Kubo S, Noda T, Myojin T, Nishioka T, Higashino T, Matsui H, Kato G, Imamura T.
bioRxiv 2018 Mar; 280008 doi: <http://dx.doi.org/10.1101/28000> Epub 2018 Mar 10.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに公衆衛生学の進歩に寄与する
ところが大きいと認める。

令和2年3月5日

学位審査委員長

循環器病態制御医学

教授 齋藤 能彦

学位審査委員

病態解析医学・医療教育学

教授 藤本 眞一

学位審査委員(指導教員)

公衆衛生学

教授 今村 知明